

製品ポイント

鋼板巻立て補強等の一般的な工法では店舗や支障物の移設撤去復旧、あるいは騒音・粉塵、資材搬入路の確保等、多くの制約があります。その為、工期の長期化や工事費の増加をすることとなります。これらの課題を改善するために、炭素繊維を帯状に形成して使用する新しい耐震補強工法「CFB（カーボンファイバーバンド工法）」を開発しました。

特徴・仕様

CFB工法は幅50mmの帯状炭素繊維を100mm以内の間隔で、柱の外周に巻付け、エポキシ樹脂でFRP化させる工法であり、以下の特長を有しています。

- ① 鋼板補強と同程度の耐震性能を有する。
- ② 型枠に樹脂を流し込んでFRP化させる浸漬工法を採用する事で、工期短縮が可能。
- ③ 補強材料が軽い為、材料搬入・施工を人力で行う事が容易で、狭隘な場所でも施工可能。
- ④ 補強作業時には動力を必要とする機器を使用しないため騒音・振動を生じない。
- ⑤ 通信機器室等の溶接の火花・煙・埃を発生させてはならない箇所での施工が可能。
- ⑥ 既設柱の表面が直接目視できる為、日常点検や地震が起こった後の緊急点検が容易である。

施工実績

山陽新幹線高架橋（広島駅等）	15本
湖西線高架橋	45本
山陽線高架橋（下関駅等）	22本

製品写真・図



補強前



補強後

問合せ先

広成建設株式会社
 施工本部 技術開発部 松本 敬司
 TEL：082-264-1724
 Email：ke-matsumoto@koseikensetsu.co.jp